株式会社 DZHフィナンシャルリサーチ
東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー32 階

October 5, 2018

豪ドル、貿易摩擦の影響は限定的か

◆米中通商協議は先送り、貿易摩擦の豪ドルへの影響は限定的か
◆中国貿易収支や中国株の動きに豪ドルは連れる可能性も
◆通貨安の影響が徐々に南アの経済指標に浸透か

予想レンジ
豪ドル円　　77.50-83.50 円
南ア・ランド円　7.10-8.30 円

10 月 8 日週の展望

豪ドルは上値が重くレンジ取引になるか。米中貿易戦争の行方は変わらず不透明な状態である。米国は中国との貿易交渉はまだ時間がかかるという見解を示している。トランプ米大統領はカナダとの交渉が進み、日本とも前向きな話が進んでいることで、中間選挙を前に一定の成果を出したため中国との交渉は宙に浮いたまま先送りになりそうだ。当面は米中貿易戦争による豪ドルへの影響は限定的になるだろう。

来週は豪州から 9 日に 9 月の NAB 企業業況感と企業信頼感指数、12 日に 8 月の住宅ローン貸出が発表される。また 11 日にはエリス豪準備銀行（RBA）総裁補佐の講演、12 日には RBA の金融安定化報告が公表される。家計債務は依然として国内金融にとってリスクになると RBA はみているが、これらの文言に変化がないか注意したい。また中国からは 8 日に 9 月の財新サービス業 PMI、12 日に貿易収支が発表される。中国の経済指標や中国株の動きに豪ドルは連れる可能性もある。

南ア・ランド（ZAR）の上値は限定的か。今週発表されたトルコの消費者物価指数（CPI）で通貨安がインフレをおこす悪循環になっていることが証明された。南アの 8 月 CPI は前月比で-0.1%、前年同月比で+4.9%と市場予想よりも弱い結果だった。しかし ZAR は 8 月と 9 月の下げ幅が大きかったことや、通貨安が経済指標に反映される時間的なギャップもあり、今後は南アもトルコと同じ道を歩む可能性もある。来週は 11 日に 8 月の製造業生産が発表される。

10 月 1 日週の回顧

豪ドルは上値が重かった。日曜日に発表された中国の製造業 PMI と財新製造業 PMI が市場予想を下回る結果となり、香港株式市場が下落（中国市場は国慶節で休場）したことでリスクオフになり豪ドルは売られた。8 月の住宅着工件数は市場予想の+1.0%を大幅に下回る-9.4%となったことも豪ドルの頭を抑えた。一時ユーロに連れて豪ドルも下値から切り返す場面もあったが、上値は重く対円では 9 月 18 日以来となる 81 円を割り込んだ。また対ドルは 2016 年 2 月中旬以来の水準まで下落した。RBA の理事会は市場予想通り政策金利を 1.50%で据え置いた。声明文もほぼ前回と同じ「低水準の政策金利が豪経済を引き続き支えている」「豪ドルは過去 2 年間にわたって貿易加重ベースのレンジ内にとどまっているが、大半の他の通貨とともに米ドルに対して下落している」という内容だった。8 月の貿易収支は 16 億 400 万豪ドルの黒字となったが、市場の反応は限られた。

ZAR も下落した。週初は対円で 8 月 10 日以来となる 8.10 円まで上昇した。しかし株価が弱含んだことでリスクオフになったことや、米金利の上昇、南ア新車販売などが不振だったことで ZAR はじり安なり、対円では 7.6 円台まで、対ドルでも 14.9ZAR 台まで下落した。トルコの 9 月 CPI が前月比+6.3%、前年比+24.52%と市場予想を上回ったことで、トルコリラ安によるインフレの悪循環が続いていることが確認されたことも、新興国通貨全体の上値を抑えた。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.